

船舶事故調査報告書

令和2年6月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和元年7月15日 08時50分ごろ
発生場所	京都府舞鶴市博奕岬 ^{ぼくち} 北東方沖 博奕岬灯台から真方位035° 2.3海里付近 (概位 北緯35°34.7' 東経135°22.1')
事故の概要	プレジャーボート第四ちしょうは、漂流中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和元年9月20日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 第四ちしょう、2.4トン
船舶番号、船舶所有者等	295-29496京都、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	機関に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、釣りの目的で漂流中、機関室に浸水して機関の約半分が浸かり、ビルジポンプが起動できず、クラッチも入らなかったため、航行することができなくなり、船長が海上保安庁に救助を要請し、来援した巡視艇の乗組員により排水作業等が行われた後、自力で帰港した。</p> <p>本船は、前部甲板に設けられた生け簀の隔壁に穴が開けられて電線が機関室に通されており、同穴がFRP素材で閉塞されていたものの、同素材が剝離し、生け簀内の海水が浸入したことが判明した。</p> <p>船長は、博奕岬を通過した後、船首方からの波浪により船体への衝撃が大きかったため、FRP素材が剝離したのではないかと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、機関室に通じる生け簀の隔壁に開けられた穴がFRP素材で閉塞されていたものの、船体への波浪の衝撃により同素材が剝離したことから、生け簀内の海水が機関室に浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、機関室に通じる生け簀の隔壁に開けられた穴がFRP素材で閉塞されていたものの、船体への波浪の衝撃により同素材が剝離したため、生け簀内の海水が機関室に浸水したものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機関室の点検を定期的に行い、異常の早期発見に努めること。

	<ul style="list-style-type: none">・ 船体が激しく動揺した後は、各部の点検及び調査を実施することが望ましい。
--	---